

会 議 録

会 議 名	第25期小金井市公民館企画実行委員の会議 第16回		
事 務 局	小金井市公民館 緑分館		
開 催 日 時	令和元年11月5日(火) 午前10時～11時30分		
開 催 場 所	小金井市公民館 緑分館 生活室		
出 席 委 員	大島委員、大野委員、東委員、長坂委員、杉井委員		
欠 席 委 員	横須賀委員		
事 務 局 員	岡本主任、山本非常勤		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	なし
会 議 次 第	1 報告事項 (1) 子ども体験講座「秋のランチ Box 作り&まちかどコンサート」 2 協議事項 (1) 来年度事業 ・市民講座のテーマ ・成人大学講座のテーマ ・成人学校の内容 3 その他 日程の確認について		
会議結果(要旨記録)			
<p>司会：長坂委員</p> <p>1 報告事項</p> <p>(1) 子ども体験講座「秋のランチ Box 作り&まちかどコンサート」</p> <p>長坂委員：それではお手元の議事次第にしたがってすすめさせていただきます。まずは子ども体験講座「秋のランチ Box 作り&まちかどコンサート」からお願いします。</p> <p>岡本分館長：子ども体験講座「秋のランチ Box 作り&まちかどコンサート」について報告をさせていただきます。こちらは宮地楽器ホールとの共催事業として実施した。秋のランチ box は東委員、まちかどコンサートは大野委員にご協力いただいた。参加者からは多いに楽しめたと言われている。アンケート集計が終わっていないため、今度出す予定。参加された各委員から感想等あればお願いしたい。</p> <p>大野委員：歌が素晴らしかった。宮地楽器ホールの大ホールでできる方が、ここでやっていただけるといふ、このまちかどコンサートはすばらしい。</p> <p>東委員：良かったと考えている。受付を行ったランチ box は1人当日キャンセルがいたが、そういうのがなくなるようにしていかないと問題である。</p> <p>杉井委員：秋のランチ box からまちかどコンサートへ全員行ったのか？</p> <p>岡本分館長：まちかどコンサートは、当日参加も可としていたため、大人と子どもとあわせて全部で65人の方が参加した。その中には、ランチ box に参加した親子も参加している。</p>			

大野委員：まちかどコンサートは、宮地楽器ホールの通常業務の一つなのか？

岡本分館長：宮地楽器ホールの担当者から聞いている話では、宮地楽器ホールまで来られない方のために実施している事業である。

大野委員：ぜひ、もっとやってほしい。

2 協議事項

(1) 来年度事業

長坂委員：それでは、次に協議事項として、来年度事業について話をお願いしたい。

岡本分館長：来年度予算要求は終わった。前回の会議中で指摘を受けた部分については申請内容を内部で検討し、要求する物は要求した。本来、予算が確定するまでは動きができないが、準備が必要な事業が多々あり、事前にご意見をお聞きしたい。

まずは市民講座である。今年度は「地域の歴史・地理」をテーマに、9月に「スタジオジブリ～映像の中でみる多摩地域～」を実施し、2月に「小金井の今、昔」を実施し、3月ごろに田家さんをお願いをしていこうと考えている。来年度のテーマをご議論いただきたい。

長坂委員：大きなテーマを決めてから、細かい内容を調整するということでよいか。

岡本分館長：そのとおりである。

長坂委員：回数は何回あるのか。

岡本分館長：5回である。

大島委員：話題としては地球の環境問題などがある。

長坂委員：農工大学の先生で環境問題をやっている方はいないのか。

岡本分館長：農工大学とは成人大学講座で実施しているので、他のところで探す予定である。

長坂委員：他の館はどのようなテーマでやっているのか。

岡本分館長：本日の午後の企画実行委員連絡会で話ができるため、そこで聞いていただきたい。

長坂委員：本日は予定があり、いけない。

岡本分館長：先に言えばよかったが、市民講座のテーマは本日決める必要はなく、検討を進めていただきたい。今、地球環境を一つの候補とさせていただく。

長坂委員：災害とかもよいのではないか。

大島委員：防災もいれてもよい。

山本非常勤：貫井北で防災の講座を実施する。今度、私も来年度の高齢者学級の講師を務めていただけないか話をしてみる予定である。

岡本分館長：それでは、まずは地球環境と災害・防災をテーマの候補として考え、次回また話をさせていただく。

次に、成人大学講座についてご議論いただきたい。以前の会議の中で、農学部の畜産学科の内容を検討してもらえないと言われていた。その点についてどうお考えか教えていただきたい。一昨年は、「最先端の農業技術」としてやった。来年度はどうするか。

大野委員：うちで飼っている犬を農工大学に連れて行ったことがあった。

長坂委員：ペット等の関係で内容をどうするのか。

杉井委員：私はペット飼っていないから、どれだけの人が興味あるのかわからない。

長坂委員：ペットを飼っている人、これから飼おうとする人は多いと思う。興味はあるのではないか。

大野委員：手続きは、こちらでテーマを決め、その内容に即して農工大学の中で検討して

もらっているはずである。

岡本分館長：そのとおりである。農工大学には共同獣医学科というのもあり、最新の獣医、ペット事情などについて話をしてもらいたいとも思っている。

詳しいことは農工大と調整をさせていただきたいが、この内容でよいか。

長坂委員：いかがか。

東委員：興味もあるし、よいのではないか。

岡本分館長：では、農工大学と調整をはじめさせていただきたい。

次に、成人学校の件である。野外研修の場所については調整を図った。事業の内容として2回分をどうするのか。成人学校は、趣味、仲間づくりなどを目的に実施している事業なので、その中で何をするか検討をしておきたい。

長坂委員：美術の話はいかがか。美術を学ぶというのもおもしろい。

大野委員：古墳探索などはどうか。

長坂委員：私は古墳にも興味があり、色々と回っている。先ほどの話した西洋美術館などにいくのもよい。ただ、それぞれ行く前に勉強してから行くのもよい。

山本非常勤：高齢者学級で美術評論家の方にきてもらい、美術について説明をしてもらった。大変おもしろかった。

長坂委員：行くとなると、行くまでの行程や安全面への配慮など大変なため、まずは勉強を中心に考えてもよいのではないか。

岡本分館長：成人学校の中には、1回目講座、2回目現場に行き、解説もつけて見て回るなどもある。

山本非常勤：高齢者学級の声としては、特定の画家についての的を絞って話をしてほしい、大きく印象派について教えてほしい、など色々あった。講師からも色々なバリエーションで話をすることができると言われた。

岡本分館長：これについても次回の会議のときに再度話をさせていただきたい。

あと、次第への記載漏れがあったが、国際交流イベントの対象国についてご意見を伺いたい。

大島委員：スリランカの関係のイベントに行った。この国には昔行ったことがあり、NPO法人でスリランカの小学校を支援する団体もあり、この国を対象としてもよいのではないか。

岡本分館長：スリランカで進めてよいか。海外の方の場合、ご自分の国の事情で8月とかに2か月帰ってしまうことがあり、そうすると連絡ができなくなってしまうため、事前に話ができると助かる。

大野委員：僕は個人的に韓国がいいと思った。

杉井委員：私も、今年ネパールなので方向性を代えても良いかと思う。

大野委員：ただ、来年はスリランカでよい。

東委員：スリランカでよい。

岡本分館長：スリランカで調整をはじめさせていただく。

山本非常勤：来年度の高齢者学級の事業で野外研修の渋澤栄一記念館に行く予定である。

大野委員から渋澤栄一について勉強してから行くのが良いとの意見があり、調べたところ國學院大学の教授が講義をしていただけそう。しかし、その先生が、来年6月までハーバード大学に行ってしまうため10月以降の講義となる。その後、野外研修に行こうと思っている。大野委員が楽しみにしていたのに申し訳ない。

杉井委員：なぜ大野さんが行けなくなるのか。

岡本分館長：まず、大野委員の任期が来年の7月で終わる。3期目のため次に立候補する

ことができない。次に、高齢者学級は途中から参加することはできないため、4月から申し込みをする必要がある。そのうえで、企画実行委員会も高齢者学級申し込みはできるが、一般の方優先になる可能性が高い。そうすると落ちてしまう可能性が高くなっており、その辺について内部で検討する必要がある。

長坂委員：来年度事業については、これでひととおりご意見がでたので、ここで終了し、次第3日程についてお願いしたい。

岡本分館長：本日、午後2時から企画実行委員の連絡会がある。出席をお願いしたい。先の話だが、2月4日（火）に貫井南分館で午後1時から研究大会の報告会、午後2時15分から三者合同研修会を実施する予定である。正式な通知文ができれば改めて連絡をさせてもらう。研究大会は、予定として昭島で2月2日（日）の予定である。

次第の裏面が11月の予定となっている。

11月9日（土）、生活日本語教室の野外研修がある。東委員に同行をお願いする。11月13日（水）、高齢者学級の野外研修があり、大島委員と横須賀委員に同行をお願いする。12月に子ども体験講座が2回ある。2回とも東委員お願いする。

日程は以上である。

杉井委員：12月3日は予定が合わないので休む。

岡本分館長：了解した。

長坂委員：日程は以上だが、次第にない案件で何かあるか。

杉井委員：国際交流イベントで24日の料理の時、先ほどの当日キャンセルがあった場合、どのように補填するのか。

岡本分館長：職員で対応する方向となる。

杉井委員：なぜそのような対応となるのか。

山本非常勤：来ると言っているけど、当日急に来られなくなったりするが、講師が材料を買っており、その分を払わないことはできない。

岡本分館長：当日の追加はできないが、まだ募集はしているためこれから増えるかもしれない。

杉井委員：24日は他の関係があり、中途半端になってしまうとわかっているが興味があり、当日、参加はできないか。

岡本分館長：当日は無理である。

杉井委員：当日、休んだ人がいたら代わりに参加できないか。

岡本分館長：前回の会議の中でも説明したが、「当日、急に企画実行委員が講座に参加するのはやめていただきたい」と説明をした。来られるなら来られる、来られないなら来られないで整理をしてもらいたい。

杉井委員：2年前の国際交流イベントのときに、岡本分館長が呼んだ人。友人だから呼んだ。

岡本分館長：違う。国際交流イベントの参加資格は、在住・在勤・在学となっており、今お話に出てきている方は、小金井市役所に勤めており、在勤者のため参加資格を有していた。そして、その方から参加申し込みがあったので他の参加者同様に参加してもらっただけである。

山本非常勤：他の講座でも市役所の他の部署の方が参加している講座はある。

杉井委員：講座の中での実費負担のところ、昨年度の国際交流イベントでもラオスビールを配るでもなく、疑わしいところがあった。

岡本分館長：まず、誤った情報を話されても困る。ラオスビールは、ラオス友好協会から寄贈された物である。寄贈時には40人程度の参加者がいると考えていたので、40本ほ

ど寄贈を受けた。しかし、実際の講座は20人程度だったため、半分余ってしまった。そのため、まずは寄贈者に状況を説明し、残った20本について返却するかどうか確認をしたところ、「参加された方などでお分けいただきたい」と話があったため、参加された方のうち、公民館緑分館まで取りに来ていただける方についてはお配りをした。その辺も講座の中で説明をしてきたが、杉井さんは話を聞いていなかった。さらに、今回の話は何度も説明している。

杉井委員：大野委員にも渡していた。

岡本分館長：大野委員は、もともと講座に参加する予定でいたが、当日来たら、杉井委員の一言に腹をたててしまい帰ってしまったので、せめてビールだけでもと思い、お渡しした。

大野委員：自分の担当じゃない事業に参加することはわかっていた。だけど、興味があったため、話をして参加しに来たが、気分を害したので帰った。

杉井委員：それはちょっと違うが、そうじゃなくて、私は冷蔵庫にビールが冷えていたのを見て、「これを参加者に配らないのか」と聞いたが、やらなかった。

岡本分館長：その時も説明したが、何度も言っているが本来は40人程度の参加があるのではないかと考え、寄贈者から40本も寄贈してもらうことができた。しかし、実際にやってみたところ参加者は20人程度だった。そのため、20本も余ってしまったが、寄贈者に返却する可能性もあり、残りのビールの扱いについて寄贈者に確認をとると説明をしたはずである。

山本非常勤：講座の時に参加者には1人1本ずつ渡してある。

杉井委員：それはいい。そうじゃない。

岡本分館長：それはいいでは困る。杉井さんが今言っていることは、杉井さんの中で考えていることをただ話をしているだけであり、個人的に聞きたいことであれば後で聞くし、みんなの時間をとってでも話し合いが必要なことであればちゃんと話をしなければならないことである。

杉井委員：実費部分のところは参加者に還元できるようにしてほしい。

岡本分館長：やっている。

大野委員：違う話になるが、杉井委員が担当する事業には私は参加しません。

東委員：その話とは変わるが、先日の子ども体験で11組申し込みがあったが、10組となった場合、足りない費用も含めて支払いをするのか。

岡本分館長：材料費のため払う。

東委員：当日キャンセル者へのペナルティとか考えた方が良くはないか。こういうことはよくあるのか。

山本非常勤：よくある。

東委員：困ってしまう。

杉井委員：岡本分館長が持って帰ったというのもよくない。

長坂委員：岡本分館長がお金を払って代わりに購入したことになるのに、なぜおかしいのか。

岡本分館長：食べ物であり、お金を払っており、当日キャンセル者とも連絡がとれない状況のため、私が買い取ったと考えているが、おかしいことなのか。

大島委員：岡本分館長がお金を支払っている時点で、所有権は岡本分館長にうつっており、何にもおかしくないと思う。

杉井委員：今度の国際交流イベントは講師が材料を買うのか。

岡本分館長：杉井委員が言っていることと、今、会議の場で話していることは異なってい

る。会議の場では、1回だけしかやらない事業において、参加費がかかる物にも関わらず当日キャンセルした際のことを話している。東委員の話を進めさせていただきたい。

東委員：連絡をとって、本人に注意を促す必要がある。

岡本分館長：東委員の言っていることは正しいことだと考えている。公民館の他の館でも同様のことは起こっており、問題として対応方法について話し合いをしてくる。方法として、申込みの時にお金を払ってもらう方法がある。

杉井委員：3年前の国際交流イベントのときは1回目に集金した。

岡本分館長：それは複数回ある講座の話であり、今は1回しか実施しない講座の話をしているので講座の内容が異なる。

山本非常勤：他館でも同じケースの場合、電話をするがお金を払いに来るケースはほとんどない。謝罪はあってもお金を払いに来る人はほとんど人はいない。

杉井委員：もう少し金額を安くしてはどうか。

山本非常勤：安かったとしても当日のキャンセルは出てしまう。

杉井委員：安くすれば負担が減るし、前の週までにメニューをお出しして説明するとか、もしくはメニューを減らせばよいのではないか。

岡本分館長：杉井委員、申し訳ないが話がずれている。今の話は国際交流イベントの料理の話であり、今、会議の場で話しているのは1回限りの講座で、参加費がかかるものの当日キャンセルをした人に対してどう対応していくのか、という話である。なので、話を戻させてもらう。

山本非常勤：「お金をとる」と書いてあっても持ってこない人は多い。

岡本分館長：書いてあっても、取り立てに行けば苦情や問題につながるケースがでてしまうと考えている。

事前に電話をして、確認をするなどやり方も含めて検討が必要かと思っている。

東委員：わかった。

長坂委員：他はないか。なければこれで終了する。

次回の会議 令和元年12月3日(火) 午前10時

公民館緑分館 学習室 司会：横須賀委員